令和3年度　学校評価総括表　　伊丹市立 伊丹幼稚園ありおか分園

教育目標	心身豊かに共に育ち合う子どもを育てる
重点目標	子どもが心豊かに共に育ち合う保育を推進する。　地域に開かれた幼稚園づくりを推進する。

項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	きめ細やかで特色のある幼児教育の提供	・創意工夫を活かした教育課程を編成する。 ・幼児理解と教師の保育力の向上を目指した園内研究会を実施する。	・3年保育36ヶ月の保育計画をたて、子どもの実態を踏まえながら教育課程を編成していく。 ・教師の資質向上のため、講師を招聘し、園内研究会を行い、保育の見直しや改善を行っていく。 ・コロナ禍においても、オンラインでの研修会やその他の研修会に積極的に参加するようにする。	・学期ごとに教育課程を見直し、伊丹市立幼稚園の教育課程をベースにしながら、園独自の教育課程を編成する。 ・教育課程や研究テーマをもとに、短期指導計画の形式を見直し、作成する。 ・園内研究会を実施し、保育の質の向上を図る。 ・全職員が、幼児教育研修会や共同研究園の園内研究会などに参加し研修する。	A	・教育課程の見直しについては、学期に1回子どもの実態を捉えながら、又、伊丹市立幼稚園の教育課程を元にしながら見直すことができた。 ・自己表現や自己表現が出来る保育を進めていくために、短期指導計画の中に、研究の視点と10の姿の欄を設け、新しい形式を作成した。 ・講師を招聘した園内研究会を実施したことで、子どもの実態や課題、環境構成や教師の援助について学び合うことが出来た。 ・全職員が、幼児教育研修会や共同研究園の園内研究会などの各研修会に2回は参加し研修することができた。	・伊丹市立幼稚園教育課程編成表が完成するので、それベースにしながら、園の子どもの実態 を踏まえた園独自の教育課程を編成していく。 ・引き続き、短期指導計画の話し合いの度に、形式を見直し、教育課程や研究テーマに基づいた形式を探っていく。 ・計画的に園内研究会を行い、教師の質の向上を目指していく。 ・コロナ禍においても、オンラインでの研修会や様々な研修会に積極的に参加する。	A
	豊かな表現力の育成	・一人一人が自信をもって自己表現・自己主張できる保育を工夫する。 ・幼児期からの読書週間の定着を図る。	・自分が感じたことや考えたことを言葉や色々な方法で楽しみながら自己表現・自己主張できる機会をもつ。 ・保育の中で、絵本やお話・音楽に親しむ機会をもつ。 ・絵本の貸し出しを週1回行う。園だよりに親子で絵本の日を記入し、その直近で月刊絵本を配布し、保護者啓発をする。 ・絵本コーナーや貸し出しでの感染を防ぐための対策をとる。	・一人一人が様々な方法で自分なりに自己表現・自己主張しようとする。 ・保育の中で、各学年の発達や季節に応じた絵本の読み聞かせ、昼食時に童謡音楽・朗読CDをかける等、お話や音楽に親しむ機会をできるだけ毎日もつ。 ・4，5歳児は30冊以上、3歳児は20冊以上の絵本の貸し出しを達成する。 ・コロナウィルス感染対策を徹底するために、手洗い・消毒をしてから絵本を貸し出す。また、返却絵本は72時間以上経過してから貸し出しを行う。	B	・保護者アンケートで、「自分の気持ちや意見を大人や友達に伝えることができる」というアンケート項目において、肯定的な評価が75%以上あった。 ・幼児の自己表現・自己主張の捉え方について、園内研修をもとに、職員間で共通理解し、保育に生かすことができた。個人の記録を元に、一人一人が自己表現・自己主張できるためのポイントを整理することができた。 ・保育の中で、毎日絵本の読み聞かせや昼食時のCD等、絵本やお話に親しむ機会をもつことができた。 ・コロナウィルス感染予防を徹底し、絵本貸し出しの目標冊数を達成できた。	・年齢や発達に応じて、幼児が自己表現できるよう、今後も環境の構成や教師の援助を工夫し、個々に合わせた保育を進める。 ・今後も、感染予防に努めながら、絵本や音楽、ICTなどを計画的に保育に取り入れ、絵本に親しみ、豊かな表現力を育むことができるよう、保護者にも幼児にも啓発する。	B
	特別支援教育の推進・充実	・一人一人の個性を大事にし自分らしく表現できるよう、個々の発達段階や課題に応じた適切な指導・援助を行う。	・特別支援教育担当者と担任が子どもの実態について捉えて個別指導計画を立て、全職員での共通理解を図る。また、保護者に開示をして、子どもの課題に対して園での取り組みや支援方法を伝え、園と家庭との連携を密にする。 ・特別支援対象児だけでなく、全園児に対し発達の課題に応じて関係機関と連携を密にし、集団参加や社会参加において、子どもや保護者にとって効果的な援助や支援方法を考える。 ・子どもの実態や課題に応じて、クラス活動やにじいろ広場に自信を持って参加できるよう個別な支援を行う。	・保育後に気になったことを職員間で話題に取り上げ、全職員で子どもの姿や支援方法について共通理解をする。また、個別指導計画を年2回作成し、子どもや保護者の支援に活かす。 ・個別指導計画を保護者に開示し子どもの発達状況や園での支援方法を伝え、園と家庭が共通理解する場をもつ。 ・わかばこども園でのにじいろ広場に個々の状態に合わせて参加を促す。	A	・職員間で、個別の配慮が必要な子どもの姿を情報交換し、日々の支援方法について共有することができた。 ・保護者アンケートの、一人一人を理解し、個々に応じた指導が行われている」という項目において85%以上の肯定的な回答があった。 ・コンサルテーションと連携を図り、子どもの理解を深め、それぞれの子どもに合ったよりよい支援方法を学ぶことができた。 ・わかばこども園でのにじいろ広場に参加し、専門的な遊具を使った経験を深めることができた。	・今後も全職員で子どもの様子を共有し、継続した支援ができるようにする。 ・保護者との連携を大切にし、個別の指導計画の内容を共通理解しながら保育実践につなげていくようにする。 ・わかば こども園でのにじいろ広場への参加を勧め、自園の保育に活かしていく。 ・研修会に参加し、専門性の向上に努める。	A
豊かな心・健やかな体	豊かな心・思いやりの心の育成	・基本的生活習慣の確立をめざし、自分の体を大切にする子どもを育てる。 ・身近な人とのかかわりを通して相手を思いやる心、自尊心を育む。 ・飼育栽培活動や、自然とかかわる関わる機会を大切にし、命の大切さや尊さに気づき、思いやりの気持ちを育てる。	・「保健の話」や「健康カレンダー」などで基本的な生活習慣や健康に関する意識を高める。 ・友達とのかかわりの中で、相手を尊重する気持ちや思いやりを育む。 ・誕生会や敬老の日を通して、家族の愛情や生命のつながりを感じ、自分を大切にする気持ちを養う。 ・地域の方と連携しながら計画的に栽培活動を行い、飼育活動や自然と触れ合う体験等を通して、命の尊さが感じられるようにする。	・保護者アンケート「お子様はコロナウイルス感染症予防対策を守りながら生活している」については肯定的な評価を目指し継続的に指導していく。 ・月に1回の「保健の話」や「健康カレンダー」保健だよりの配布を活用し、健康について意識向上を目指す。 ・保育の中で、異年齢の交流の機会をもつようにし、小さい子に思いやりの気持ちが育めるようにする。 ・友達に思いやりの気持ちをもってかかわっている姿を認め、自尊感情を育む。 ・飼育栽培活動を日々行い、命をつなぐ大切さを体感できるようにする。	A	・保護者アンケート「お子様はコロナウイルス感染症予防対策を守りながら生活している」について90%以上が肯定的な評価であった。「保健の話」や「健康カレンダー」は定期的に実施することができた。健康カレンダーの回収率は100%で園と家庭で協働しながら、健康活動を推進することができた。 ・保護者アンケートの「自分や友達、周りの人のことを思いやりの気持ちをもち、大切にしている。」の項目で肯定的な評価が80%であった。 ・自尊感情を育むために大切なことを教師間で共通理解し、保育に生かすことができた。	・コロナウイルス感染症予防の取り組みについては、来年度も引き続き丁寧に行い、保健だよりなどで実施内容を伝えていくようにする。 ・1年を通して健康活動が継続できるよう、子どもへの声かけや園内の掲示物などを工夫していく必要がある. 園と家庭で協働するために、保健の話の内容や様子を保健だよりやHPを通して家庭へつなげ、啓発を進めていく。 ・飼育栽培活動については、今後も地域の方と話をしながら幼稚園のねらいを明確にして取り組むようにする。	B
	体力の向上	・運動遊びに取り組み、喜んで体を動かす子どもを育てる。	・子どもが自ら体を動かしたくなるような、環境構成や援助について考える。 ・子ども達の実態に合わせ身に付けさせたい力を読み取りながら、体力の向上を目指す。 ・意欲的に継続して取り組むことのできる運動遊びを考えていく。	・1日に1度は戸外や遊戯室で、体を動かして遊ぶ時間を設ける。 ・様々な運動遊びに自ら取り組もうとする。 ・体を動かす遊びを継続して取り入れ体力の向上を図る。	A	・1日に1度は体を動かして遊ぶ時間を、継続して設けたことで、様々な運動遊びに自ら取り組もうとする姿が見られるようになった。 ・保護者アンケート「お子様は、体を動かして遊ぶ事を楽しんでいる」では提出者全員が肯定的な評価であった。	・より体力の向上に繋がるような運動遊びを、計画的かつ積極的に保育の中に取り入れていく。	A
開かれ信頼される学校園	幼稚園情報の積極的な発信	・保護者や地域に幼稚園の情報を発信する。	・HPに園の行事予定や園児の様子を、写真と共に掲載し積極的かつ継続的に地域や保護者に情報を発信する。 ・園だより、クラス便りを発行する。 ・園教育についての保護者アンケートを実施し、評価を実施する。 ・コロナ感染予防のために参観できない活動の写真や連絡を、ホワイトボードや掲示板に貼る。	・HPを1ヶ月に5回は更新する。 ・保護者アンケートにおいて「幼稚園は、園の情報を園だよりやクラスだより等を通じてわかりやすく伝えている。」という回答が90%以上になる。 ・掲示板やホワイトボードを必要に応じて活用する。	B	・HPや便りを通して園の情報発信を積極的に行ったが、保護者アンケートで肯定的な回答が80%あった。 ・コロナ感染拡大防止のために、縮小や中止になった行事への保護者理解が難しかった。	・園の教育内容を理解してもらい、保護者と連携して教育活動が推進できるように、情報発信に引き続き取り組んでいく。 ・HPは教育を理解していただく機会となるので、行事のみならず普段の保育の様子や環境等も発信していくようにする。	B
	子育て支援事業	・子育てについての情報発信を行ったり、子育ての支援活動を行ったりする。	・本園主催で園児と未就園児との交流の機会（なかよし交流会）を計画し、実施する。 ・子育てについて保護者と連携を密にとり、各家庭に応じた支援を実施する。	・なかよし交流会（年8回）を実施し、未就園の子ども達や保護者に幼稚園を知ってもらう機会をつくる。 ・懇談や連絡帳・電話などを使って子育てについての相談に応じる。	B	・予定していた8回中5回は緊急事態宣言中等で中止をしたが、3回実施できた。3回とも10組以上の親子の参加があり、季節の遊びや各学年との交流も行うことができた。 ・保護者アンケートの「幼稚園を子育て支援の場と活用している。」という項目では肯定的な回答が80%以上あった。	・来年度も園児との交流を取り入れたなかよし交流会を計画的に行い、さらに充実した子育て支援を行えるようにする。 ・継続して連絡帳の活用や懇談を行い、各家庭に応じた支援を実施する。	B

学校関係者評価総括

・コロナ禍ではあったが、無事に1年終えられたこと、良かったと思う。園行事へ評議員・評価委員の参加の機会が減ったが、12月の参観、配布手紙等からコロナ禍でも努力し、工夫された保育や園児の成長達成のプロセスが窺えた。幼児教育において、豊かな表現力・思いやりの心の育成・体力の向上は特に重要な所であり、地域からも保護者からも信頼をうけ、その中で自然と共に子ども達がのびのびと楽しく過ごせる環境のよりいっそうの向上をお願いしたい。

次年度に向けた重点的な改善点

・今後も全職員で感染予防に努めながら年齢や発達に応じた一人一人の自己表現を大切にし、環境の構成や教師の援助を工夫していく。
・園の教育内容の情報発信に努め、保護者と連携して教育活動が推進できるようする。

自己評価の基準　**A**：目標を上回った　**B**：目標どおりに達成できた　**C**：目標をやや下回った　**D**：目標を大きく下回った